

3 田畑・野原・園庭・公園をフィールドとしたプログラム

田畑や野原では、土とふれあうことができ、土と動植物との関わりや、土の中にたくさんの分解者がいることなど、土のはたらきを知ることができます。また、ゴミと土との関係から、人間はどのように行動することが大切かということを考える機会にもなります。

園庭や公園では、遊具などの無機物（人工物）と自然物とで、色・温度・生きているかそうでないかなどの違いを五感を使って比較してみましょう。



プログラム名	土っておもしろいな					
対象年齢	年中（4～5歳）					
ねらい	メッセージ	生き物がすんだり草が生えたりする土のはたらきに気づこう				
	発見・体験 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田んぼの土の感触（やわらかさ、粘り気、温度など） ・ 土の中にすむ生き物の気持ち 				
参加者のめやす	幼児3～40人 / 支援者2人					
実施時間	30分					
フィールド						
	森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期						
自然を感じるためのヒント						  
時間	活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備				<ul style="list-style-type: none"> ●周囲の安全に留意できるよう、事前に危険な場所などをチェックしておきます。 ●稲の切り株にも目を向けましょう。 ●長靴をはいた方がよいでしょう。 		
2分	①田んぼ（休耕田）の中を、自由に歩いたり走ったりする			<ul style="list-style-type: none"> ●フィールドに到着したら、自由に歩いたり走ったりして、活動の前に体を温めるとよいでしょう。 ◎土の感触だけでなく、土と動植物のかかわりについて発見できることもあります。（モグラの穴、草の生えているところとそうでないところなど） ◎田んぼの中に水たまりがあれば、そっとのぞいてみましょう。小さな生きものに出会えるかもしれません。 		
10分	②さまざまな動物になりきって動く			<ul style="list-style-type: none"> ●足の裏だけでなく手も使って土の感触を感じとれる動物がおすすめです。（モグラ、犬、カエルなど） 		
				<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> モグラになりきって土を掘る </div>		

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	③鬼ごっこをする	◎走ったり、こけたりして、地面の感触を体感します。つかまったら鬼になり、鬼がどんどん増えていく方法など、鬼ごっこも工夫できます。
8分	④長靴の裏に付いた土を取って、土団子を作ってみる	●「足の裏、どうなった?」「さわってみようか?」などと声かけをして、土団子作りに誘います。 ●長靴の裏に土が付いていることにマイナスイメージを持たないように、「大地からのプレゼント」などと表現して、楽しく受け止められるような言葉がけをしましょう。
5分	⑤土の感触や、土のはたらきについて話し合う	◎なぜそのような感触になるのか（天気の影響、草が生えているかどうかなど）も話し合ってみましょう。

豆知識 土のはたらき

- ・植物を育む…例：畑、田んぼ、森林
- ・生き物の生活の場となる
例：モグラ、ミミズ、オケラ、幼虫、
バクテリアなどの小さな生き物
- ・陶器などの原料となる 等

【異年齢への対応】

◆年少・年長も同様に実施できます。

【園や家庭へ帰ってから】

◆ダンゴ虫などの土壌生物を育ててみましょう。土への関心が継続し、生き物を大切にする気持ちにつながります。

◆土が他の自然物に対してどのように役立っているかについて、話し合ってみましょう。

◆陶芸にチャレンジしてみましょう。

準備物・教材等

- ・長靴
- ・ビニール袋



プログラム名	<p>におってさわってなんでしょう？！</p>					
対象年齢	<p>年中・年長（4～6歳）</p>					
ねらい	メッセージ	<p>野原や公園などにある自然物のつながり（自然界の循環）に気づこう</p>				
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な種類の自然物があること ・野原や公園にある自然物の感触（やわらかさ、硬さ、形、においなど） ・野原や公園に落ちているゴミの種類 				
参加者のめやす	<p>幼児1～20人 / 支援者1人</p>					
実施時間	<p>30分</p>					
フィールド						
	森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期						
自然を感じる ためのヒント						
時間	活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備				<ul style="list-style-type: none"> ●「な～んだ袋」に、自然界にあるものとないもの、さまざまなおいや触感のものを入れておきます。 → p15 「お役立ちアイテム」参照 ●一つの袋には一種類のものを入れます。 <p>〈自然界にあるもの〉 （ゲームをする場にあるもの） → まつぼっくり、笹の葉、わらび 枯葉、石 など</p> <p>〈自然界にないもの〉 → プラスチックのコップ、こんにゃく おもちゃのブロック、電池、携帯電話 ペットボトル、油粘土 など</p> ●植物の場合は、手でもんだり、すりつぶしたりしておくと、においがわかりやすくなります。 <p>〈においのするもの〉 → 土、ヨモギ、果実の皮 季節の花（キンモクセイなど）</p>		
10分	①中身が見えない袋の口を細めた部分からにおいをかいで、中身が何か考える					

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>10分</p> <p>10分</p>	<p>②袋の中身がわかったら、フィールド内の決められた範囲の中でそれと同じものを探しに行く（採集はしない）</p> <p>③自然の中にあるものとなないものとの違いを通じて、自然界の循環の話をする</p>	<p>◎においや触感だけではわかりにくいもの場合はヒントを与えるなどして、考える楽しさを感じられるようにしましょう。</p> <p>◎「袋の中に石を入れて、触れたものと同じ大きさの石を探す。」という内容でもできます。</p> <p>●においを嗅いだり触れたりして、さまざまなものに興味を持ち、自然界にあるものとなないものの違いを意識した段階で、「本来自然の中にないもの(ゴミなど)がなぜそこにあるのか」を考えていけるように話し合います。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少：年齢が低い場合は、感触やにおいの違いがはっきりとわかるものを選んで袋の中に入れるようにします。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆自分にとって「良いにおい」「嫌なにおい」とはどんなにおいか、話し合ってみましょう。虫、動物、人間にとっての「良いにおい」は異なります。それぞれが生きていくために必要な「においの役割」について考えてみましょう。</p> <p>◆犬になりきって散策し、街に存在するさまざまなにおい（排気ガス、飲食店、ゴミ箱など）と自然の中でのにおいを比べてみましょう。</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<p>・な～んだ袋 ・袋の中に入れる物(できるだけ感触やにおいの違いが明確なもの)</p>	

豆知識 「におい」にはいろいろな意味がある
「におい」には、動植物が生きていくための重要なはたらきがあります。

- ・マンサクやヤツデは、人にとっては臭いにおいだが、虫を寄せつけて花粉を運ばせるために必要
- ・動物のウンコやオシッコは、なわばりを示すために必要



プログラム名		なぁににタッチ？					
対象年齢		年中（4～5歳）					
ねらい	メッセージ	自然界は多様なもの（動植物、石、水、土など）で成り立っていることに気づこう さまざまな自然物に親しみ、自然を大切にする気持ちを持とう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・野原や公園にある自然物の感触 ・擬態語からイメージする感触が人によって異なること 					
参加者のめやす		幼児5～30人 / 支援者2人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じる ためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
1分		①オニを1人決める			<ul style="list-style-type: none"> ●広範囲になりすぎないように、場所を決めて実施しましょう。 ●「おーちた おちた」の遊びの歌と同じリズムで歌えるよう、みんなで楽しく練習しておきましょう。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">「おーちた おちた」の遊び方</p> <p>①言葉とそれに応じた動作を決める。 雷 → おへそに手をあてる リンゴ → 口に手をあてる（食べる） 石 → 頭に手をあてる</p> <p>②支援者が「おーちたおちた」という。 ③子どもたちは「なーがおちた？」ときく。 ④支援者は、決めておいた言葉の一つを言う。 ⑤子どもたちは、言葉に合った動作をする。</p> </div>		
6分（②～⑤）		②オニは感触を表す言葉を1つ言って、みんなはその言葉に当てはまるものをさがしに行く					
		オニ 「ターッチ、タッチ」			●感触を表す言葉の例		
		みんな 「なぁににタッチ？」			ねばねば、さらさら、ぬるぬる、ざらざら、べたべた、ちくちく、つるつる、にゆるにゆる など		
		オニ 「○○○○」 (感触を表す言葉)			◎感触を表す言葉だけでなく、においや色を表す言葉、「木」や「石」、「ほっぺ」、自然物以外のものの名前にしてもおもしろいでしょう。		

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
2分	③言われた感触のものを見つけ たら、タッチして帰ってくる	◎フィールドが園庭や公園であれば、タッチする対象物は、自然物だけでなく既製遊具などの人工物も混在することから、それらの違いについて感じとることができるでしょう。
3分	④友だちがタッチしたもののと ころへみんなで行き、観察し て確認しあう	
	⑤一番に帰ってきた子が次のオ 二になる	
12分	⑥②～⑤を繰り返す(3回)	
6分	⑦みんなで活動をふり返る	●他の人が発見したことや感じたことをみんなで分かち合います。自分が見つけたもの以外にさまざまなものが存在することや、一つの擬態語からイメージするものが人によって異なることを話し合います。



【異年齢への対応】

- ◆年少：「ターッチ、タッチ、体でタッチ」という遊びにアレンジします。指示する言葉を「大きな木」、「地面」などの具体物とし、みんなで同じものにタッチします。慣れるまでの最初の数回は、支援者がオ二の役割をする方がよいでしょう。
- ◆年長：④の活動で、ルーペを使ってみましょう。「なぜ、ざらざらするのか？」表面をじっくりと観察することができます。

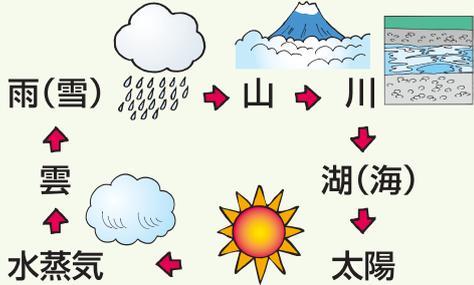
【園や家庭へ帰ってから】

- ◆身の回りのさまざまな人工物に触れてみて、自然物との違いを感じましょう。
- ◆「自然の中で、もし〇〇が無かったら？」（例えば「木」）と問いかけ、どのような気持ちになるか、どんな影響が考えられるか、みんなで話し合ってみましょう。自然界のさまざまなモノがつながっていることへの気づきを促します。

準備物・教材等



プログラム名		見てみよう！雪の結晶							
対象年齢		年中・年長（4～6歳）							
ねらい	メッセージ	水の循環に気づこう							
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の冷たさ、やわらかさ、色、味など ・雪の結晶の形の多様性 							
参加者のめやす		幼児5～40人 / 支援者3人							
実施時間		30分							
フィールド									
	森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園			
実施可能時期									
自然を感じるためのヒント									
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ				
18分	<p>①降ってくる雪を体で感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積もった雪に顔をうすめる ・降ってくる雪を口でキャッチする ・降ってくる雪を素手で受け止めてルーペで観察する ・雪のお布団ごっこ ・坂すべり ・雪だるまづくり ・かまくらづくり ・雪合戦 	<ul style="list-style-type: none"> ●体をぬらしてしまうと、活動時間や雪遊びの楽しさが減ってしまいます。手袋は防水性のもの（スキー用のものが望ましい）を使用し、長靴の中に雪が入らない工夫をしましょう。 ●ズボンの裾は必ず長靴の中に入れ、スキーウェアのズボンの裾を外に出します。着衣のズボンと長靴との隙間をなくすため、(雪用の)スパッツをつけたり、ガムテープを巻いておくで確実です。 ●スキーウェアの下はできるだけ薄着で、汗をかいてもすぐに拭いたり着替えたりできるようにしましょう。 			 <p>リスさんのお家を作ろう！</p>  <p>冷たあ～い！</p>  <p>気持ちいい～！</p>				
		◎アニマル・トラッキング（動物の足跡探検）も雪ならではの遊びです。							

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
2分 2分 5分 3分	②雪の結晶さがしをする (手の上で雪の結晶を試してみる) ③ルーペと黒画用紙を使って雪の結晶を見たり、溶ける様子を見る ④雪の冷たさや結晶の不思議さについて、みんなで話し合う ⑤雪が溶けたらどうなるのか、みんなと一緒に考える	●ルーペの使い方を確認しておきましょう。  <p>すごい！ いろんな形があるんやなあ…</p> ◎自然界の水の循環について知らせましょう。 <div data-bbox="831 770 1394 1160" style="border: 1px solid green; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">〔豆知識〕 水の循環</p>  </div> <div data-bbox="320 987 767 1211" style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">〔豆知識〕 雪の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶けて水になり、地面にしみこんで植物などを育てる ・特に、山に積もった雪はゆっくりと溶けるので、川や琵琶湖に水を安定して供給することができる </div>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少：活動は晴れた日に限り、長時間にならないように留意する。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆氷を虫眼鏡で観察して雪の結晶と比べたり、お風呂の湯気を手やコップにあててみて水蒸気から水滴への変化をみるなど、水の形状の変化を観察してみましょう。</p> <p>◆水の循環には何が必要か、みんなで話し合ってみましょう。(太陽、風など)</p> <p>◆雨や雪は災害などにより人間の生活を脅かすこともありますが、人間も含めた生き物のいのちを支える水の恵みをもたらすものでもあります。多世代の人たちを交えて昔のくらしとの比較をしてみましょう。</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーペ ・防水スプレー ・黒画用紙 ・大小ビニール袋 (大：坂すべり用。肥料袋が厚手でおすすめ) ・着替え ・室内へ戻ってから体を温めるための準備 (手を温めるための湯、温かい飲物、戻ってくる前に暖房を入れておく など) 	



プログラム名		コスモスの宝物							
対象年齢		年長（5～6歳）							
ねらい	メッセージ	コスモス畑や野原には多様な生物がいることに気づこう							
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・コスモスの葉っぱのやわらかさ ・カードをみつける楽しさ ・人との出会いの楽しさ 							
参加者のめやす		幼児30人 / 支援者3人							
実施時間		30分							
フィールド									
	森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園			
実施可能時期									
自然を感じるためのヒント									
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ				
準備					<ul style="list-style-type: none"> ●絵合わせ用のカードを用意します。 (カードはジグザグに二つに切っておきます) ●カードの絵は季節に合った虫やコスモス畑で見かけた虫を描きます。 ●あらかじめコスモス畑の中に数箇所に分けて隠しておきます。 				
5分		①子どもたちがコスモス畑に入り宝（カード）探しをする							
20分		②見つけたカードを絵合わせして、合った人とペアになる ・ペアが見つかったら、2人で待つ			●全員がペアになるまで待ちます。				
									

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	③ふりかえり	<p>◎1枚の虫の絵を手足・頭・胴・羽などに分けて、別々のカードにしてコスモス畑に隠し、見つけたカードを持ち寄って虫の姿を完成させるパズルあそびをすることができます。</p> <p>◎虫の絵合わせをした後、本物の虫を探しましょう。</p> <p>◎カードに描かれている虫になりきって、歩いたり、隠れたり、食べ物を見つけたりするとあそびが広がります。</p> <p>●他の葉っぱと感触を比べ、コスモスの葉のやわらかさに気づきましょう。</p> <p>●カードに描かれている虫のすみかや食べ物などについて話し合ってみましょう。</p> 
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2歳：・コスモス畑を全員で歩きます。 ・支援者が示すカードと同じ絵を見つけます。(支援者と一緒にグループで行動します) ◆年少：・同じ絵を2枚用意して、同じ絵を見つけてきた人とペアになります。 ・コスモス畑の4角から名前を呼び合い、友だちを探します。 ◆年中：・1枚の絵を中央で半分に分けるという方法で、絵合わせと同じ遊びができます。 ※年齢に応じてあそび範囲を決めましょう。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆園や家庭にある葉っぱを探し、触って感触の違いを感じ取ります。 ◆コスモス畑にいた虫は、どんなお話に出てくるか絵本などで探してみましょう。 		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・絵合わせ用のカード（宝になる虫を描いた画用紙） →人数分の半分・・・虫を書いた画用紙はジグザグに2つに分けておく 	

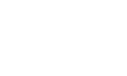


プログラム名		どこからくるの？びわこの水					
対象年齢		年少・年中・年長（3～6歳）					
ねらい	メッセージ	一滴（ひとしずく）の雨が大きな琵琶湖の一部になることに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・雨を五感で感じる。 ・雨水を使ってあそぶ。 ・雨水の流れを知る。 					
参加者のめやす		幼児25人 / 支援者3人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じる ためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分	<p>①導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水を感じる ・大きな木の下で、雨のシャワーを浴びる 	<p>●雨水を、上を向いて顔に触れたり、口を開けて食べてみたり、五感を使って感じられるような言葉がけをします。</p>					
	<p>②グラウンドを歩く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぬかるみの中に入る ・足跡をたくさんつける 	<p>●歩いたときのぬかるみの感触を体験できるようにします。</p> <p>●静かに歩いたり、大またに歩いたり、ドシドシ歩いたり工夫します。</p> <p>●たくさんの足跡ができ、水溜りができていることに気づくようにします。</p>					
20分	<p>③川作りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を使わずに手や足で作る 	<p>●足跡の水溜りをつなげて、水が流れる様子を見せます。</p>					



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	<p>④大きな水たまり（琵琶湖）を作る ・道具（スコップ、ジョウロなど）を使う</p> <p>⑤ふりかえり ・作った琵琶湖の周りに集まる ・琵琶湖の水がどこから来るのか話し合う ・作った川や琵琶湖を元通りにする</p> 	<p>●子どもたちと一緒に水たまりをつなげながら、川や琵琶湖を作って遊びます。</p> <p>◎島やダムなど、その場に存在しているものを工夫して作ってみましょう。</p> <p>◎友だちと共同製作してみましょう。</p> <p>◎葉っぱや枝などの自然物で、魚や船を作り、作った琵琶湖に浮かべてあそんでみましょう。</p> <p>●雨水が川や琵琶湖になることを知らせます。</p> <p>◎お勧め絵本「しずくのぼうけん」 作：マリアテルリコフスカ 絵：ボフダンブテンコ</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆1・2歳児：泥水や泥を触ってみましょう。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆実際に川から琵琶湖を見に行きましょう。（雨天時や晴天時）</p> <p>◆親子一緒に雨を感じることをしてみましょう。 （例）顔を空に向ける。口を開けて雨を食べる。</p>		
準備物・教材等	<p>・子どもたちは濡れても良いように、カッパと長靴を着用する。</p> <p>・バケツ</p> <p>・スコップ</p> <p>・ジョウロ</p>	



プログラム名		どんぐりころころ					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	自然の循環に気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での開放感 ・木の幹の太さ、感触 ・どんぐりの形、色、感触 					
参加者のめやす		幼児30人 / 支援者3人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じる ためのヒント							
							
時 間		活 動		●配慮・アドバイス ◎アレンジ			
5分		①「どんぐりころころ」の歌を歌う（1、2、3番）		●公園内の様子の問いかけから、どんぐりを引き出します。 （例）「公園にはどんなものが落ちているかな？」と問いかけます。			
		♪どんぐりころころ 3番♪ どんぐりころころ 泣いてたら 仲良し子リスがとんできて 落ち葉でくるんで おんぶして いそいで お山につれてった		●「どんぐりころころ」の歌を物語として、子どもたちがあそびを展開していけるようにします。			
		②どんぐりを拾う ・1人1個 ・1年生…帽子付きどんぐり ・幼児……帽子なしどんぐり ・全員のどんぐりを集める		◎どんぐりの特徴を話し合しましょう。			
		③どんぐりになって、公園内の池や山のある場所に行く		●この間に、他の支援者はどんぐりに3色（黄、赤、青）の色で印をつけ、くじを作ります。			

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
15分	④グループ分け <ul style="list-style-type: none"> ・くじを引く ・3グループに分ける (黄色、赤色、青色) ⑤「リスとドングリ」鬼ごっこ <ul style="list-style-type: none"> ・2分間×3回 (リスとドングリを交替する) 	●帽子つきドングリは小学校1年生、帽子なしドングリは幼児が引き、ミックスチームを作ります。 ●リスは何を食べているのかを話します。 ●捕まって、池に入った人は応援するように伝えます。 ◎捕まった人が復帰できるルールを考えましょう。
<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>「リスとドングリ」 鬼ごっこのあそび方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リス役が鬼（1グループ）になり、ドングリ役（2グループ）はリスに捕まらないように逃げます。 ・捕まると池に入れられます。 (原っぱの凹のところ) ・木に抱きつくと5秒間休憩できます。 鬼は木に抱きついていない人はねらえません。 ・2分間または、全員捕まったところで終了です。 </div>		
5分	⑥ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・リスとドングリの関係を話し合う 	●リスとドングリの関係を話し、子どもたちが自然が繰り返していることに気づけるようにします。 (例) 木から落ちたドングリをリスが食べ、ウンチします。そのウンチが木の栄養になり、またドングリができます。 ●ドングリは木に実り、落ちることを知らせます。 (例)「ドングリのお父さん、お母さんの木はどこにあるかな？」
		
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆0～2歳児：・袋の中に入れてドングリを触ってみましょう。(ドングリの感触) ・ドングリを容器に入れて音を楽しみましょう。 ◆年少：・ドングリを拾いに行ってみましょう。 ・リスや他の動物がどのようにドングリを食べているか想像してみましょう。 ◆年中：・ドングリ役とリス役が視覚的にわかるようにお面や名札をつけて、同じ遊びをしてみましょう。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆園でドングリ虫を観察し、飼育してみましょう。 ◆夕食時の食材は何からできているかを家族の人と話し合い、人間も生き物を食べていることを理解しましょう。 		
準備物・教材等	・ポスターカラーペン（ドングリに印をつけるために使います）	



プログラム名		田んぼで電車ごっこ					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	開放感や一体感を味わいながら、豊かな感性を味わおう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼの土の感触（やわらかさ、でこぼこ感など） ・イネかぶを踏む音、感触 ・広い空間で風をきって走る楽しさ 					
参加者のめやす		幼児60人 / 支援者9人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分	①グループに分かれる				●8グループに分かれます。		
10分	②電車ごっこ <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを聞く ・電車になり、好きなところに行く ・ゲーム開始  ・終点で集合（移動）				<div style="border: 1px solid green; padding: 10px;"> <p>「電車ごっこ」のあそび方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで稲を持って電車を作り、指示にしたがって動きます。 <p>新幹線：スピードアップ 風が吹く：止まる 地震：座る 夜：目をつむる 朝：目を開ける でこぼこ道：イネかぶをジャンプ 山：イネかぶを踏む</p> </div> ●汽笛の音（笛）で戻ってくることを伝えます。 ●指示は最初3種類にし、なれてきたら増やしていきましょう。 ●電車がとぎれないように、お友だちのことを考えて動けるように伝えましょう。 ●田んぼの土の感触などをふり返ります。		

プログラム名		みんなでわら笑 うんどうかい！！					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	自然物は無駄なものがないことに気づこう。 人間の知恵と工夫を学ぼう。					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物があそび道具になること ・わらの感触（やわらかさ、かたさ、形）・わらのおいや音 ・わらの軽さ、飛びにくさ ・田んぼの走りにくさ 					
参加者のめやす		幼児60人 / 支援者5人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					●周囲の安全に留意できるよう、事前に危険な場所などをチェックしておきます。		
5分		①導入 ・わらを見つける ・感触を知る・匂う ・わらをとばす			●「これ何だ？」とわらについて問いかけます。 ●わらの感触を体験できるようにしましょう。 ●わらを飛ばし、風を感じましょう。わらは軽く、まっすぐに飛びにくいことに気づくように言葉がけをしましょう。		
10分		②わら入れ競争 ・チームに分かれる（16人×4チーム） ・ルール説明を聞く ・ゲーム開始 ・チームの色のカゴを追いかけわらを入れる ・1分30秒×4回行う。 ・2チームずつ、前半と後半で入れ替わる			●支援者があそび方の見本をわかりやすいように見せませす。 ●玉入れの玉の代わりに、田んぼに落ちているわらでします。 ●背負っているかごの間隙から、わらがこぼれないように、ビニール袋をかぶせます。 ◎サービスタイムを設け、カゴを止めて待っています。		

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
10分	<p>・グループごとに1列に並ぶ</p> <p>③わら玉送り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール説明を聞く ・ゲーム開始 ・2回戦 <p>(前から後ろ、後ろから前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わったチームは、わら玉を置いて座る 	<p>●結果報告をします。</p>  <p>●支援者があそび方の見本を見せます。</p> <p>●わら入れ競争でビニール袋に集めたわらを使いわら玉送りをします。</p> <p>◎前から後ろにわら玉をまわし、一番後ろの人が前にわら玉を持ってきて終了にします。</p> 
5分	④ふりかえり	<p>●わらがどうなっていくのかを考えたり、また縄やわら細工など実際にわらで作られたものを見せたりして、わらは無駄なく使われていることなどを伝えます。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年少：・ひこばえのイネのあまり成長していない所で、時間を短縮して行ってみましょう。 ・カゴを中央に置き、2メートルほど距離をとって、わら入れをします。 ・わら玉送りは、横方向に渡して行ってみましょう。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆わら細工を体験してみましよう。 ◆わらが出てくる絵本を読んでみましよう。(例) わらしべ長者など ◆四季を通じて親子で田んぼの観察をしてみましよう。 ◆地域の人にわらの話を聞いたり、わら細工を教えてもらったりしましよう。 ◆家にあるわら製品を園に持ってきて見せ合いましよう。 		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・カゴ(2個)・笛・時計 ・わら入り袋(1つ) わら玉の見本・わらの見本 ・袋(グループ数) わら玉送りでわらを入れる袋 ・色テープ(グループ数)・縄等(見本) 	



プログラム名		園庭の宝石さがし					
対象年齢		年中（4～5歳）					
ねらい	メッセージ	石にも自分たちと同じように違いや個性があることに気づこう いろいろな物があることで輝いているということに気づこう					
	発見・体感 できること	・石の形、感触、大きさ、色などの違い ・石の表情の変化					
参加者のめやす		幼児30人 / 支援者1人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じる ためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備		<ul style="list-style-type: none"> ●事前にルーペの使い方を知らせます。 ●ルーペで太陽を見ないことを伝えます。 ●笛の音で集合することを確認します。 					
10分		①ルーペで砂や石、花等を見る					
10分		②万華鏡を作る ・小石を探す ・いろいろな形の石を入れる ・グループ内で万華鏡を見せ合う			<ul style="list-style-type: none"> ●各グループに一つ万華鏡を準備しておきます。 ●万華鏡を作ることを知らせ、万華鏡に入る大きさの石を探せるようにしておきましょう。 ●万華鏡の使い方を知らせます。 ●石によっていろいろな見え方があることに気づけるようにしましょう。 ●子どもたちの驚きや発見に共感しましょう。 ◎万華鏡にいろんな自然物を入れて見てみましょう。 		

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
10分	③石についての話を聞く ・どんな石があったか話し合う ・石はどこから来たのか考える	●石はどこから来たのかいっしょに考えましょう。 ●活動を通して、石にも自分たちと同じように違いや個性があること、またいろいろな物があることで輝いているということに気づいていけるように話しましょう。 
【異年齢への対応】 ◆2歳児：・ルーペより扱いやすい虫眼鏡や拡大鏡を使いましょう。 ◆年 少：・石の見立てあそびをしましょう。 ・石に絵を描きましょう。 ◆年 長：・グループでルーペを使いましょう。 ・集めた石を分類し、石で絵を描いてみましょう。		
【園や家庭へ帰ってから】 ◆近くの川で石を拾って、積んであそんでみましょう。 ◆集めた石を図鑑で調べてみましょう。 ◆保護者といっしょにきれいな石を探しに行き、園で展示してみましょう。 ◆石の展示物を博物館等に見に行きましょう。		
準備物・教材等	・ルーペ（人数分） ・万華鏡（グループ数） ・笛（1つ）	



プログラム名		虫さんのステキなお家をつくろう							
対象年齢		年長（5～6歳）							
ねらい	メッセージ	野原で生きている虫たちの暮らしに気づこう							
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな虫が、その特徴に合った場所で生息していることに気づく ・植物などの自然物は、ふかふか、ざらざら等いろいろな感触を持っていることを知る 							
参加者のめやす		幼児20人 / 支援者4人							
実施時間		30分							
フィールド									
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園		
実施可能時期									
自然を感じるためのヒント									
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ				
5分	① 今日の遊びについて話を聞く	●野原にあるいろいろな植物を使うように助言しましょう。			◎イメージしやすいように、自分達の生活や家を思い出せるような声かけをしましょう。				
10分	② 虫のお家をつくる	●いろいろな自然物の特性を活かして、家や食べ物をつくっている様子を認めましょう。			●自分達の快適なお家をイメージし、その発展として虫が快適と感じるお家を作りましょう。				
									
	今回はプラスチックのパン箱の上に新聞紙を敷き、その上で作りました								

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	③でき上がったお家についてグループごとに発表する インタビューのように聞いていきます 	●虫が気持ちよく暮らせるように住み家がつくれたことを認めましょう。 ●工夫したり、想像してつくったところを聞き出し、共感しながら話を聞きましょう。 ◎何かをマイクに見立ててインタビューをするなど、工夫をして話を引き出します。
7分	④でき上がった家を、虫の住みやすい場所に置きに行く	●木陰がいいのか、草原がいいのか考えながら、見つけた虫がいたような環境に置くことが必要です。 ◎パン箱を使わずに自然物だけでお家を作ると、置いたお家を残しておくことができ、継続した観察ができます。
3分	⑤今日の遊びを振り返る 	●小さな生き物も自分たちと同じように生命があり、生活していることを知らせましょう。 
【異年齢への対応】		
<p>◆年少：・子どもたちが虫になりきるような、なりきり遊びをするとおもしろいでしょう。 ・虫の暮らしている場所を全員で見に行きましょう。 ・虫が住んでいる家はどこにあるか、みんなで考えましょう。</p> <p>◆年中：・箱を小さくし、部屋に必要なものを提示してそれになりうるものを探してくるような家作りなら可能です。</p>		
【園や家庭へ帰ってから】		
<p>◆自宅近くで、虫にとって住みやすい環境を探してみましょう。 ◆虫にとって快適な環境を作るために何ができるか、家庭で考えて実践しましょう。 ◆園の中で、紙や積み木を使って家を作ります。その中で虫になったつもりでなりきり遊びをしましょう。</p>		
準備物・教材等	<p>・虫ケース 4個 ・移植ごて（スコップ） 8～10本 ・パン箱 4個 *グループがわかるように1つ1つにマークをつけておく (れもん、あおりんご、ばなな、さくらんぼ)</p>	

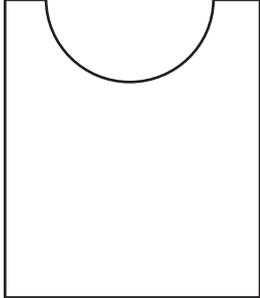


プログラム名		みんな生きているんだ					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	植物は生きのびるためにいろいろな工夫をしていることを知ろう					
	発見・体感 できること	・見たり、触ったりして、いろいろな植物を知る					
参加者のめやす		幼児25人 / 支援者3人					
実施時間		30分					
フィールド							
	森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じる ためのヒント							
時間	活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ			
5分	①活動内容を知る			<ul style="list-style-type: none"> ●「今日はこの原っぱを探検して、いろいろなものを見つけようと思います。」4つのテーマを書いた紙を見せながら、グループのお友だちと一緒に探してくるよう に伝えます。 (例) ①服にくっつくもの ②とげとげしたもの ③木からのおとしもの ④自分たちより背の高い草 ●約束（道から向こうへは行かないこと、グループの友 だちと一緒にいくこと）を話します。 			
10分	②グループの友だち（3～4人） で探しに行く			<ul style="list-style-type: none"> ●取りにくいものを取ろうとしている場合には様子を見 ながら援助します。 ●道から向こうに行かないように目を離さないようにし ましょう。 			
							

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>10分</p> <p>5分</p>	<p>③ 1 グループずつ前に出て、1つずつ取ってきたものを見せて発表</p> <p>④ 取ってきたものがどういう仲間かを話し合う ・ふりかえり</p> 	<p>● 「取るときに大変だったことはなかったかな?」「すぐにみつかったかな?」等情報を共有します。</p> <p>● 「どうしてくっついたり、取りにくかったり、落ちていたり、背が高かったりするのかな?」と問いかけてみましょう。</p> <p>● 子どもたちの言葉をヒントにしなが、4つのテーマにそって、いろいろな工夫をして草や木は生き伸びていることを伝えます。</p> <p>・ くつつくもの・・・誰かにくっついて違う場所に種を落とす。</p> <p>・ トゲトゲしたもの・・・実を食べにくる動物が近づいてこないようにしている。実から種になっていく。</p> <p>・ 木からのおとしもの・・・おちた実から新しい芽が出て育っていく。</p> <p>・ 自分たちより背の高いもの・・・種が風にとばされやすい。折れないように丈夫になっている。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆1～2歳児：ドングリなどたくさんあるものや目につくものを先生と一緒に拾って遊びましょう。</p> <p>◆3歳児：先生と一緒に歩いてみて、草木感触を体感したり、先生と同じものを探したりしてみましょう。</p> <p>◆4歳児：わかりやすいものを選んで一つに絞って探すようにしましょう。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆親子で一緒に散歩に行ってみましょう。</p> <p>◆園だよりやマップ等で、遊び方や遊べる場所をお知らせするのもよいでしょう。</p> <p>◆園の行事で自然体験を親子活動に位置づけ、一緒に参加してもらうとよいでしょう。</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<p>・ハサミ（グループ数）</p> <p>・テーマを書いた画用紙</p>	



プログラム名		葉っぱコンテスト					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	豊かな感性を培おう					
	発見・体感できること	・葉っぱの色、形（大きさ、長さ）、感触、におい					
参加者のめやす		幼児35人 / 支援者6人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					●あらかじめ、6グループに分け、話を聞くことができる場所を決めておきましょう。		
5分		①グループごとに集まり、いろいろな形や色の葉っぱに気づく			●葉っぱの形や色、においに気づけるように言葉がけをしていきましょう。 ●葉っぱをこすると、においが強くなることを伝えましょう。		
10分		②「くんくんコンテスト」をする ・グループでにおいの強い葉を探す ・その日の当番が最もにおいの強い葉を決める			●笛が鳴ったら、探すのをやめ、戻ってくるように伝えましょう。 ●探す場所、範囲をあらかじめ決めておきましょう。		
5分		③「背くらべコンテスト」をする ・グループ内で最も背が高い葉を決める。1人ずつ探す			●1番背の高い葉っぱを探してきた子を次の活動のモデルにしましょう（各グループ）。		

時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>10分</p> <p>5分</p>	<p>④「おしゃれコンテスト」をす るいろいろな葉っぱを服につ けていく</p> <p>⑤みんなに披露する おしゃれポイントを伝える (こだわった所、おススメ等)</p> <p>⑥いろいろな葉っぱがあったこ とに気づく</p> 	<p>●白いポリ袋を服のように作っておきましょう。 ・着るのはモデル (各グループに1人) ・この服を着て、セロテープで葉っぱを付けていく。</p>  <p>●いろいろな形や色の葉っぱがあったことに気づけるよ うに声掛けしていきましょう。</p> 
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆家庭での葉っぱ遊び。 ◆ちぎった葉っぱ、そのままの葉っぱの比較 ◆子ども同士の対話やコミュニケーションについて、グループ活動を通して仲間との協力について話を深める。 ◆園庭にある葉っぱとの比較 (湖岸と園庭、家庭の葉っぱを比較) ◆食べられる葉っぱを調べ、味覚に訴えかける。 ◆園の周りの葉っぱマップづくり (お散歩マップを利用して)。 ◆季節での葉っぱの変化。 ◆おしゃれコンテストの葉っぱを教室に貼り出し、その変化を見ていくことで、生きている葉っぱの大切さに気づく。 ◆葉っぱで絵をつくる保育。 		
<p>準備物・教材等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セロテープ (各グループに1つずつ、計6つ) ・ポリ袋の服 (各グループに1つずつ、計6着) ・時計 ・笛 	

